

4. 成人市中肺炎の重症度別患者数等

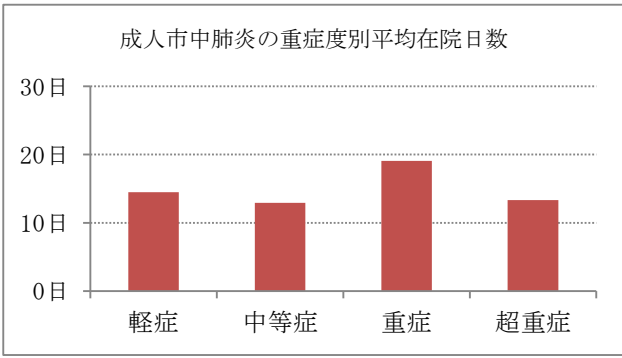
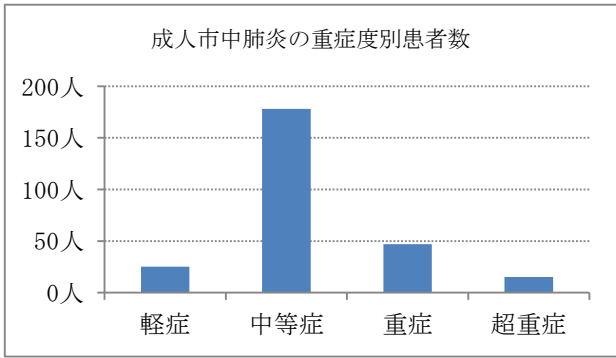
市中肺炎とは、日常の生活を行っていて発症した肺炎をいいます。入院契機となった病名が肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎の患者を主体にしています。
重症度分類は、男性70歳以上、女性75歳以上かどうか、腎機能、酸素濃度、意識状態、血圧などで4段階（軽症、中等症、重症、超重症）に分類しています。

令和7年度 成人市中肺炎の重症度別患者数等

【定義】

- ・入院の契機となった傷病名および医療資源を最も投入した傷病名に対するICD10コードがJ13～J18\$で始まるものに限定。

重症度	患者数	平均在院日数	平均年齢
軽症	25人	14.48日	59.88歳
中等症	178人	12.93日	74.18歳
重症	47人	19.09日	80.17歳
超重症	15人	13.33日	79.73歳



コメント

新型コロナウイルス感染症を除いたデータです。重症・超重症肺炎の症例数が比較的多いものの、平均在院日数がさほど長くないことが当院の特徴と言えます。